

参考様式第2号（第8条関係）

会 議 概 要 報 告

1. 会議の名称	令和2年度 第1回潟上市子どもの貧困対策協議会
2. 開催日時・場所	令和3年2月2日（火） 13時30分 ～ 15時10分 潟上市役所 4階 第2会議室
3. 委員等の人数	17 人
4. 出席委員等の人数	12 人
5. 議題	1 開 会 2 福祉事務所長あいさつ 3 委員紹介 4 委員長の互選 5 議 事 （1）報告事項 ① 子どもの貧困対策整備計画について ② 子どもの貧困を取り巻く状況について （2）子どもの貧困対策整備計画の進捗評価について 6 意見交換 7 その他 8 閉 会
6. 傍聴者の数	なし
7. 会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・潟上市子どもの貧困対策協議会委員名簿 ・子どもの貧困対策協議会要綱 ・資料1 潟上市子どもの貧困対策整備計画【概要版】 ・資料2 潟上市における子どもの貧困を取り巻く状況 ・資料3 潟上市子どもの貧困対策整備計画__個別事業評価シート・追加事業評価シート（R1年度分） ・資料4 潟上市子どもの貧困対策整備計画__計画の目標値と推進状況シート（R1年度分） ・参考資料 潟上市子どもの貧困対策整備計画（平成29年3月）

<p>8. 会議の概要</p>	<p>委員長には天王南中学校校長の高桑博幸委員を互選より選出</p> <p>議事1： 次第5（1）「子どもの貧困対策整備計画」及び「子どもの貧困を取り巻く状況」について</p> <p>質問資料2－生活保護世帯数の推移についてですが、高齢者も含めた潟上市全体ですか。</p> <p>回答はい。そうです</p> <p>質問このうち母子家庭の数はどのくらいでしょうか。</p> <p>回答平成30年度は19世帯、令和元年度は15世帯おおむね20世帯前後で推移しています。</p> <p>質問資料2－小学校・中学校の児童・生徒数推移及び要保護準要保護児童生徒数の推移について、子どもの人数が減少しているのは分かりますが、それに伴って要保護準要保護児童生徒数も減少しています。各家庭においてそれぞれの理由があると思いますが、どのような要因があると考えていますか。</p> <p>回答就業していなかった母子父子家庭が就業に結びついた、その背景として、様々な資格取得の支援などがありますのでそれらを活用し就職・増収に結びついたことが大きな理由だと考えます。生活保護世帯も年々減少傾向にありますので母子父子世帯の状況も少しずつではありますが減少してきています。</p> <p>質問資料2－ひとり親家庭の収入状況について、【不明】、ひとり親家庭の世帯主の仕事の状況について、【無職】の方がいますが、その内で生活保護を受給していない方の生活費はどのようにしているのでしょうか。社会福祉協議会のたすけあい資金などをつないでいる世帯もあるのでしょうか。またその生活実態は把握しているのでしょうか。</p>
-----------------	---

回答毎年8月に児童扶養手当の現況届を行っています。その中で父子家庭・母子家庭の方々と個別に面談していますので各家庭の生活状況は把握しています。また収入状況について【不明】の方は未申告などの家庭が含まれると考えております。

議事2： 次第5（2）子どもの貧困対策整備計画の進捗評価」について

※説明・質疑

質問貸付の支援がありますが貸付けられている支援に対して返金されているものですか。難しいものでしょうか。

回答母子・父子の貸付に関しては、母子父子自立支援員が生活の実態を確認後、貸付金額を設定し、中央福祉事務所で審査会を経て貸付額が決定します。多くは高校卒業後就職のため、自動車免許を取得するための40万円前後のもの、大学入学の支度金であります。就職・卒業後に定期的に返済してもらえるよう無理のない範囲の金額に設定しております。

回答社会福祉協議会関係であれば奨学金であっても、卒業後返済出来ないことが多いです。たすけあい資金の5万円についても貸し倒れがある状況です。

回答たすけあい資金に関しては3～5万円、5万円を上限とした生活が苦しい方の一時的な貸付、生活保護受給前、低所得の方からの貸付を受け付けていますが、なかなか返還してもらえないのが実情です。昨年コロナの関係もあり、貸付金が増え原資が減りつづけ元に戻らないという状況が続いておりましたので社会福祉課として昨年度原資を補填しました。潟上市としても出来ることをしながら社会福祉協議会と共に市民の生活の安定を心掛けています。生活の苦しい方への貸付ですので、社会福祉協議会でも訪問や面談等をし負担にならないような少額で、返還をお願い

いしているようです。

質問資料4ー子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）の利用件数について平成29年度から利用件数が減っていますが、その理由として利用者が減ったのか、サポーターの数が減ったのか教えていただきたいです。

回答子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）の利用件数について減少の理由についてですが、小学生までのお子さんの支援に関わる事業として平成27年度に昭和子ども園内のセンターに開設しました。お世話をする方、子どものお世話をしたい方、双方の総合援助活動としてスタートしております。平成27年度から平成29年度までの利用実績は伸びていますが、平成30年度・令和元年度減少した理由として依頼会員、協力会員は増減は多くありませんが、依頼をしたいという件数が減ったことです。主な内容としては小学生の塾への送迎、児童クラブからスポーツ少年団への送迎、長期休暇の自宅からプールなどへの送迎です。潟上市として一部地域では増加しているところもありますが、全体的な子どもの数の減少と考えております。子ども子育て支援計画でもありますが目標値は今後検討していかなければならないと考えております。

質問資料3ー経済的支援、修学旅行助成金事業・子どもの修学支援について、共に助成していただける金額が、小学生5千円・中学生1万円となっております。現代のおとした玉は、小学生高学年にもなれば、金銭感覚として5千円くらいだと私自身考えていますが、この助成金を受給している親御さんや子どもさんはどのような感覚なのでしょう。

回答社会福祉協議会の事業ですので、助成金を受給されている方々の声まではこちらで把握しておりません。修学旅行助成金事業の小学生5千円・中学生1万円という金額は

	<p>お小遣い程度を想定しているのかなと考えております。</p> <p>回答修学旅行助成金事業の小学生5千円・中学生1万円ですが、社会福祉協議会から助成してもらっているという自覚を持たせるために、保護者の方に学校へ来てもらい、手渡ししています。非常にありがたいという声が多いです。旅費というよりは、現地で買い物をしたり、お土産を買う費用に使われていますので、私は非常に有効な支援になっていると考えます。小学校はどうでしょうか。</p> <p>回答修学旅行時の小学生5千円について、お小遣いの相場に比べ少し高いという印象はありますが、十分な支援かと考えています。</p> <p>回答社会福祉協議会は市民の方々の会費から事業を運営しています。決まった財源の中から、市民の方に少しでも還元し喜んでもらいたいという願いで、金額の大きさでなく将来の子ども達のためという事業だと思っています。</p>
9. その他	<p>・事務局より報告</p> <p>令和3年度は子どもの貧困対策整備計画改定作業が予定されており、改定作業に伴い委員及び各関係機関と連携していく方針である。</p>